

インターンシップを終えて

2008年度修了(会計専門職専攻) 堀田 健一郎



2月23日から27日の5日間、あずさ監査法人大阪事務所へのインターンシップに参加させて頂きました。

今回のインターンシップの私自身の目的は、公認会計士試験受験科目に關しての相互浸透的な理解を深めることでした。大学院に入学してからの2年間、書物からの学習ばかりで「こういうものなんだ」と、各科目の個別論点についての形式的な理解しか出来ていませんでしたが、「実際にはこんな意味があったのか」と机上では想像も付かなかった着眼点があり、気づきと発見の連続で学問横断的な理解を出来た点が多々ありました。

研修内容は、実査・立会・確認といった実証手続の講義とロールプレイ、パナソニック株式会社への工場見学、監査主体論、監査概論、事例研究から構成されており、これだけ見ると監査論の講義と誤ってしまうかもしれませんが、財務会計、管理会計、企業法、租税法、選択科目の知識も随所に要求され、今まで学習してきたことの実務での必要性を改めて確認しました。いずれの研修内容も有意義なものでしたが、特に実査では株券や受取手形の見本を使ってロールプレイをしていく中、企業の取引上の慣習も含め、監査人に必要な知識や能力を知ることが出来たことが印象に残っています。そして、最終日の事例研究では正解の無い問題に取り組むことで監査の本質や今後のあり方について考える機会があり、非常に頭を悩ませましたがこれらは単なる体験ではなく経験として自分の目標を実現した後にも有用な研修内容であったと思います。

在校生の皆さんには来年の参加を是非ともお勧めします。

インターンシップ

2008年度入学(会計専門職専攻) 安屋 裕史



春休みの五日間、新日本有限責任監査法人のインターンシップに参加させて頂きました。

研修内容は、会計士としての職業倫理、リスクアプローチ、棚卸の立会についてと、監査論の教科書で読んでいた内容を実際に監査法人でも行っていることを確認することができるものでした。職業倫理については、会計士法等のことは、会計士として最低限守らなければならないことで、あるべき会計士としての姿を常に自分の中で持ち続けることを学びました。リスクアプローチについては、会社が物を仕入れて販売し、売上げ、代金を回収するまでどのような手続を行っているのか、そしてその中にはどのようなリスクが存在しているのか考え、会社がそのリスクについてどのような内部統制を行っているのかを分かりやすく文書にして残すことを学びました。棚卸の立会については、実際に工場へ行き、工場の方々のご好意で棚卸作業の一部を見せていただきました。棚卸に立会い、その物が実在することを確認するだけでなく、それまでの手続が正確に行われていることも証明することができることを学びました。

研修の中で僕は、会計士として、会社が作成した財務諸表が正しいことを証明するためには、財務諸表の個々の内容が正しいことを確かめ、そのためには何が必要でどのようなものをどれだけ調べなければならないのか会計士のチームが試行錯誤しながら考えていることが分かりました。そして、調べた結果を積み重ねていきそれが個別にまた全体として正しいということを解りやすい文書にして調書化し、その結果を意見として表明することの難しさを感じました。

新日本有限責任監査法人の会計士の方々が、監査を行う上で何が重要であるのかを僕らにどう教えるべきなのかを考えてくださっていることを強く感じる五日間でした。